



春日井ロータリークラブ

2023-24

クラブテーマ

「CHALLENGE FOR CHANGE」

Rotary
Club of KASUGAI



世界に希望を生み出そう

会長：古屋 義夫
副会長：加藤久仁明
副会長：野浪 正毅
幹事：速水 敬志
会報委員長：岡本 博貴

事務局：春日井市鳥居松町 5-45
TEL：0568-81-8498
FAX：0568-82-0265
E-mail：ksgi-rc@gaea.ocn.ne.jp
HP：https://www.kasugai-rc.org/
例会場：ホテルプラザ勝川



2024年3月8日（金）2583回（3月第1例会）

本日のプログラム

- ・点鐘
- ・国歌
- ・ROTARY SONG
- ・ビジター・ゲスト紹介
- ・食事・歓談
- ・委員会報告
- ・祝福
- ・2024-25 年度地区大会実施計画説明
- ・幹事報告
- ・点鐘

司会 会場委員会
会長 古屋 義夫君
「君が代」
「奉仕の理想」
会長 古屋 義夫君

幹事 加藤久仁明君
会長 速水 敬志君
古屋 義夫君

今月の祝福

会員誕生日

1日 川瀬 治通君 5日 松尾 隆徳君
21日 久米 正俊君

結婚記念日

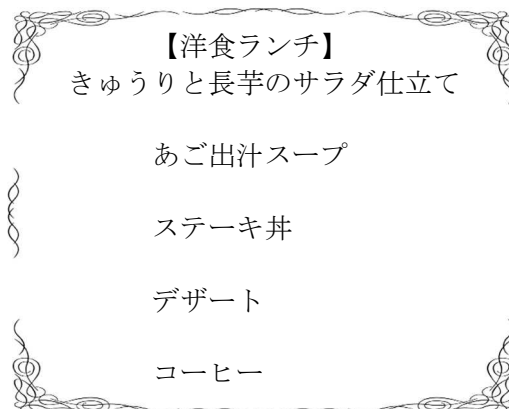
4日 和田 了司君 16日 梅村 守君
6日 藤川 誠二君 21日 日比 雄将君
6日 成瀬 浩康君 26日 北 健司君
7日 廣田 誠君 26日 速水 敬志君
12日 矢野 義博君

夫人誕生日

27日 大原 泰昭君・玲子さん
29日 加藤久仁明君・晴美さん

アテンダンス表彰

8ヶ年 小柳出和文君 8ヶ年 藤川 誠二君



例会予定	3月15日(金)	3月22日(金)	3月26日(火)	4月6日(土)
	卓話 スペシャルオリンピクス日本・愛知 八塚 奈保子様	休会	3月29日(金)例会変更 12:30～ヒルトン名古屋 3RC IAC 報告会	4月5日(金)例会変更 55周年記念式典 17:00～ 55周年祝賀会 17:30～

先週の記録

会長挨拶

会長 古屋 義夫君

2024年2月25日は第2760地区の東尾張分区12RCのインターシティミーティングが名古屋城北ロータリークラブ主幹にてヒルトン名古屋ホテルで開催されました。

受付開始は12:30~だったのですが名古屋城北ロータリークラブの皆さんは朝10:00にはホテルに集合し我々を出迎えていただいたようです。

インターシティミーティングは酒井ガバナーや津坂ガバナー補佐の挨拶そして次年度のガバナー補佐を務めることになった愛知長久手ロータリークラブの日野くんからも挨拶がございました。

式典のあと演題「これからのロータリー」ということで2750地区東京広尾ロータリーよりガバナー(2018-19)を務められた服部陽子さんの講演がありました。

講演の中で通常ロータリーは単年度制であるがその中でも戦略的に継続しなければならないものもあり単年度で終了させるよりも複数年やった方が地域に良いインパクトを与えられる場合が多いという話を聞きナルホドと聞き入っておりました。

考えてみればそれなりに大きな事業は単年度で完結するような事業は殆どなくて地域のためには複数年度で連携し継続していく必要があるのだなと痛感いたしました。

また私見ではありますがこのような奉仕の場でこそ複数年度での連携やセレブレートコミュニティの考え方そしてその行動力が必要であり有効であると感じます。

また懇親会のアトラクションにはHAPPY DOWN 's SHOWというダウン症のかたとその家族の方による心温まるダンスが披露されました。

本日はインターシティミーティングに参加をさせていただきロータリーの事を深く考えるよい機会にもなりましたし12RCの皆様との友情も更に深まり非常に意義のあるインターシティミーティングだったような気がいたしました。

ご参加された会員の皆様そして主幹していただきました名古屋城北ロータリークラブの皆様ありがとうございました。

幹事報告

幹事 速水 敬志君

2024年2月25日(日)第2582回 2月第4例会IMの幹事報告をさせていただきます。

まずは名古屋城北RC竹内IM実行委員長、メンバーの皆様、設営おもてなしありがとうございました。そして酒井ガバナー初め来賓の皆様、お越し頂きましてありがとうございました。東京広尾RC服部パストガバナー貴重なお話ありがとうございました。

次週予告です。

3月1日は休会です。翌週8日は例会に先立ちまして理事役員会があります。8日は夜間例会となりますので理事会開始時刻は16:45からですので、お間

違いのないようご参集ください。例会もお昼ではなく18時からです。プログラムは2024-25年度地区大会実施計画を加藤久仁明委員長・成瀬浩康幹事よりの説明です。15日のプログラムはスペシャルオリンピックス日本・愛知の八塚奈保子様の卓話です。翌週22日も休会です。

以上、幹事報告でした。

出席報告

委員長 長谷川久幸君

会員	52名	出席19名	出席率36.5%
先々週の修正出席		出席51名	出席率98.0%

ニコボックス報告

委員長 長谷川久幸君

IMに参加して

青山 博徳君	伊藤 正之君	岩村 幸正君
梅村 守君	大西 信之君	大橋 省吾君
大原 泰昭君	岡本 博貴君	小川 茂徳君
小川 長君	小柳出和文君	風岡 明憲君
久米 正俊君	加藤久仁明君	加藤 茂君
加藤 宗生君	川瀬 治通君	北 健司君
貴田 永克君	近藤 太門君	芝田 貴之君
清水 勲君	下田 育雄君	下別府正樹君
社本 太郎君	鈴木 克幸君	鈴木 貴之君
宅間 秀順君	筒井 康広君	峠 テル子君
朽本 正樹君	中川 健君	中澤 一君
成瀬 浩康君	野浪 正毅君	野間 峰彦君
場々大刀雄君	長谷川久幸君	速水 敬志君
菱川 一馬君	日比 雄将君	廣田 誠君
藤川 誠二君	古屋 義夫君	松尾 隆徳君
松本 俊哉君	三上 努君	水谷 高広君
森部 清孝君	山田 治君	矢野 義博君
和田 了司君		

○ご協力ありがとうございました。

出席・ニコボックス委員会

IM 基調講演 東京広尾 RC

服部 陽子君

2760地区 東尾張分区 IM

原点をみつめ未来に羽ばたく スクリプト

1 表紙 ご挨拶

2 自己紹介とPBG

3 グラム地区大会

4 広尾 RC

5 ロータリーの誕生日

ちょうど二日前の2月23日、ロータリーは119回目の誕生日を迎えました。

6 ロータリーのスタート

さて、1905年に生まれた時はたった1つであったロータリーですが、瞬く間に大変な発展を遂げました。

20年後 クラブ数 約2,000

会員数 約110,000人

その発展の陰には、ポールハリスをはじめとする当時の会員がそれは熱心にロータリーの素晴らしさを語っていたということがあります。ロータリーのような素晴らしい組織はない、自分がその一員で心

から満足していて、自分の周囲の人たちにもこの満足を味わってほしいと願った、それで熱心に語ったわけです。

7 グロー・ロータリー

その後もロータリーは発展を続けてきて、1990年代までは右肩上がりに会員数、クラブ数も増えていきました。日本の会員数も1996年に約13万人と大変多くなりましたし、世界はこの時120万人でした。しかし、ここから日本の会員数は下降線をたどり始めて、現在は83,000人程になっている。世界はここからほとんど120万人台となっています。と言っても120万人の国別のシェアは大きく変わっていて、かつては大半を占めていたアメリカ、ヨーロッパは激減し、インド、台湾、韓国と言ったアジアの国が大きく伸びています。

どんな組織も長く続いていくためには、変化を続けていかなければならないわけですが、ロータリーに於いての、特に日本のロータリーにおいての変化の速度は大変ゆっくりしているのではないかと感じます。女性会員の比率を考えてみても、例えば、オリンピックはスタートした1896年のアテネオリンピックでは女性の選手はいなかった、その後1924年のパリ大会で初めて女性が登場、前回の東京オリンピックでは、女性選手の比率は49%だったそうです。スタートして、125年で約半分は女性、日本のロータリーは100周年を迎えて3年が過ぎましたが、いまだ7%代です。

ロータリーの将来を考えるとわたしたちは今、真剣に変化に取り組まなければならないと思います。

8 ポールハリスのことば

私は、ロータリーの草創期が始まったばかりと考えたいと思います。今迄と同じくらいしなければならぬことがたくさんあります。万華鏡のような変化が起きています。

ロータリーはパイオニアとなり続けなければなりません。さもなければ進歩に取り残されるでしょう。

ロータリアン誌 1945年2月

1945年2月のロータリアン誌ですから、第二次世界大戦が終わろうとしている頃で、世界は混沌としていた時代だったわけですが、その中であってパイオニアとなる、ロータリーはどんな時代にも変化を続けていくのだということをポールハリスはこの頃から訴えていたわけです。

9 温故知新

津坂ガバナー補佐はインターシティミーティングのテーマを、

温故知新、「原点を見つめ、未来に羽ばたく！」

原点を大事にしつつ、時代に柔軟に対応した変化を起こし、未来につなげていく。

とされています。私は、ロータリーで変化という言葉を書く時、いつも思い出すのが、自分がガバナーエレクトとして出席した国際協議会で聞いた言葉です。

10 変化の風

When the winds of change blow, some people build walls and others build windmills.

変化の風が吹く時、防壁を立てる人もあれば、風車を作る人もある。

この言葉を聞いたとき、せっかくの風に乗って、風車を大きく回したいものだったのを思い出しますが、私たちが変化の風に対して、防壁を立ててしまいたくはないでしょうか。それはどうしてなのでしょう？

11 変化を拒むものは・・・

それは、こう考えるからだと思います。

長い年月をかけて培ってきた大切なものを失いたくないだろうか？

又、変化ではなく、別ものになってしまうのではないだろうか？

12 大事なものを確認

だから、変化を起こすときには、

まず大事なものを確認する、そしてそれを守り通す。ことが大切です。

原点を大事にするとはまさにこのことです。

◎ そうでないと、羽ばたきが小さくなり、思い切って大きく羽ばたくことができない。

13 ロータリーの原点

変わることはないロータリーの原点と言ったらみなさんは何をあげられるのでしょうか？

ロータリーの標語： 超我の奉仕

最もよく奉仕する者、もっとも多く報いられる

ロータリーの目的： ロータリーの目的は意義ある事業の基礎として・・・

4つのテスト： 言行はこれに照らしてから

1. 真実か どうか

2. みんなに公平か

3. 好意と友情を深めるか

4. みんなのためになるか どうか

14 中核的価値観

そして、私たちが大事にしている価値観があります。

・奉仕 SERVICE

・親睦 FELLOWSHIP

・多様性 DIVERSITY

・高潔性 INTEGRITY

・リーダーシップ LEADERSHIP

15 ロータリーの真価

今ご一緒に確認したものはロータリーがなくしてはならない大切なものです。しかし、

これだけでは頭で理解しても、はたして心で捉えられているのでしょうか？

私たちは、ロータリークラブの会員として、私たち一人一人がロータリー人生の中で掴んだ、これがロータリーだ、これこそがロータリーだ、というものが必ずあると思います。それを大事にし、またロータリーの外に向けてもそれを発信していくことが重要なのではないかと思います。私は RI が指名

を受けて、ロータリー公共イメージコーディネーターという役目を3年間務めさせていただきましたが、最初の研修で、この質問に答えなければなりませんでした。

ロータリーは他の団体とどちらがうのか？世の中に、あまたある奉仕団体とどこがちがうのか？みなさんはどうお答えになるのでしょうか？

16 タイの奉仕プロジェクト

私はロータリーに入会したころ、25年前になりますが、ロータリーの奉仕活動というのを見ていて、不思議に思ったことがあります。

それはタイの山奥の病院に医療機器を寄贈するというプロジェクトだったのですが、医療機器の贈呈式にロータリアンが何名もタイに行ってきたという写真を見せていただいた時です。入会間もない私には、こんなに何人もの人たちが、タイまでいく航空券、ホテルの宿泊費などを考えたら、その分でもう1台の医療機器が買ってしまうのではないかと思いました。なぜみんなわざわざタイまで出かけていく必要があるのか、すいぶん効率が悪い奉仕活動ではないだろうか、と不思議に思ったわけです。

しかし、行った人たちの話を聞くと、タイに行くことで現地の方たちとの交流があり、喜んでいらっしゃる方たちの顔をみて今後も支援を続けようという気持ちが高まった。また、現地に足を運んでみて、もっと別のニーズがあることにも気づき、現地のロータリアンとも親しくなって、今後はそのニーズに応えるべく一緒に奉仕活動をするようになった、というようなことがだんだんにわかってきました。私は、これがロータリーなのだ、医療機器を現地に送って、それだけで終わる活動ではない、繋がりがあり、広がりができ、人が奉仕をつなぎ、奉仕が人をつなぎ、ロータリーの素晴らしさとはこういうことなのだ、とやっとわかったのです。

17 パン屋さんの職業奉仕

もう一つお話ししましょう。

今からお話するのは私がガバナーの時、ガバナー月信に書いた職業奉仕の話です。

私の家から歩いてすぐのところに、とても美味しい小さなパン屋さんがあります。評判を聞いて遠くから買いにくる人も増えてきたようです。私は毎朝その店のパンを食べるのを楽しみにしているのですが、夕方行くと売り切れで買えないことが多いので午前中に電話で予約してから買いに行くようにしています。ある時、閉店の7時迄には帰宅できると思って朝の中に予約したのですが、どうしても仕事なが引き、夕方パンを取りに行くことができませんでした。(困ったなあ!)と、次の朝、一番でパン屋さんに駆けつけると、予約の取り置き棚に私の名前の貼られたパンが一袋残っていました。「すみません、昨日来られなくて。」という「だいじょうぶですよ。」とお店の人は笑顔で答えてくれました。そ

して、棚にあったパンを袋に入れるかと思っていたら、さっとそのパンを他の場所に移し、私の袋には今朝焼き立てのパンが置いてあるところから一袋取って、それを入れてくれたのです。何の説明もなく一瞬のことだったので、私がかたまお店の人の手元を見ていなければ、気付かなかったかもしれません。私はとても嬉しく幸せな気分になりました。お礼を言ってパンを受け取り、帰り道に考えました。残った昨日のパンはどうするのだろうか？従業員の人食べるのか、それとも捨ててしまうのだろうか？私はなんだかとても申し訳ないことをしたように思いました。予約した日に取りに行かなかったのは私の責任なのだから、少し味は落ちても前日のパンを渡して当然なのにパン屋さんは新しい焼き立てのパンを渡してくれました。どうしてなのでしょう？このパン屋さんはお客さんに最高に美味しい状態のパンを食べてもらいたいという気持ちを持って仕事をしているからなのだと思います。又、自分で納得できる品物でなければ売るのはいけないという自分の仕事へのプライドもあるのでしょうか。その時、私の頭に浮かんだのはロータリーの「職業奉仕」という言葉でした。このパン屋さんは職業奉仕を実践しているのだとわかったのです。世の中では、賞味期限切れの品物を誤魔化して販売したり、表示と違う類似品を売っていたりという類のニュースは後を絶ちません。お客さんにわからなければ古いものを平気で販売する店もあるし、お客さんにわかなくても黙って新しいものを販売しようという店もあるのです。職業奉仕を実践しているこのお店のパンを、私はこれからも買い続けたいと思いました。そして、これからは予約したパンは必ずその日に買いに行かなければいけないと反省しました。

私はこのことから、日頃ロータリーで聞いていたけれどどうもつかめ切れていなかった「あらゆる事業の基礎として奉仕の理念を実践する」という言葉の意味がやっと分かったような気がしたのです。そして、そういう人の集まりであるロータリーに身を置き、自分もその高みを目指していけることの有難さを感じたことでした。

今は、私の経験をお話いたしました。

みなさんもきっと、これがロータリーだというストーリーをそれぞれにお持ちだと思います。私たちが大切にしていかなければならないのは、変化を起こす時になくしてはいけない原点となるのは、そのストーリーだと思っています。

18 これからの変化

さて、それでは、いよいよ、私たちはこれからどのような変化をおこして、ロータリーを発展させていったらいいのでしょうか？

19 変化の時、危険なのは

安直な、小手先の変化はその時の自己満足に終わるだけで、意味のないものに終わってしまいます。

変化を起こす時には、掲げた目標に向かって変化を起こすことが重要です。

20 RIからの提言

RIは世界中のロータリアンが同じところを見つけて進める目標を示しました。

これがビジョン声明です。

21 ビジョン声明

ロータリーの「ビジョン声明」

私たちは、世界で、地域社会で、そして自分自身の中で

継続可能な良い変化を生むために、人びとが手を取り合って行動する世界を目指しています。

ゴードン会長は暗記していつでもいえるようにとおっしゃっています。

22 世界平和の実現

このビジョン声明の達成に向けて活動していくことで、ロータリーの究極の目的である世界平和の実現につながります。

23 重点分野と豊かな心

私たちは、奉仕の7つの重点分野を進めることと、豊かな心を育むことで世界平和に向けて活動していきます。

24 重点分野

奉仕の7重点分野とは確認しておきますと、

1. 平和構築と紛争予防
2. 疾病の予防と治療
3. 水と衛生
4. 母子の健康
5. 基本的教育と識字率
6. 地域社会の経済発展
7. 環境

安全な水と飲み物があること、病気になったら治療が受けられる、読み書きが習える

人として生きていく基本的なものをみんなが持つようにすること。これは平和の推進に欠くことのできない重要なものです。だから私たちは7つの重点分野の奉仕活動を行っています。世界中の人が皆笑顔になるためには、これらの重点分野のことが満たされるのはまず必要なわけです。

しかし、それだけでは十分かという、そうではありません。これにプラスして、豊かな人間の心を育むことがあってはじめて世界平和の実現につながるのだと思います。

25 ロータリーの仕事

自分が一番になりたい、自分が、自分が、ということでは、いくら衣食は足りても世界の争いは絶えません。命を尊いとおもう気持ち、人の痛みがわかる心、人の幸せを願える優しい感情、困難に立ち向かう勇氣、そういう心を育てること、体に水や栄養が必要なように、人の心を潤わす水や栄養も同じように必要なのです。世界中の人が皆笑顔になる、世界平和は、この両方があってはじめて実現できるのだと思います。

ゴードン・マッキナリー会長はメンタルヘルスを会長強調事項にあげていらっしゃるように音楽、絵画、スポーツという文化的なものを通じて人々の心を豊かにする支援も大事です。そして、私たちロータリアンは、たった一言の思いやりのある言葉や、微笑みを投げかけることだけでも、想像以上の大きな力を持って相手の心を潤すことをいつも覚えていたいと思います。

26 ビジョン声明達成のための行動計画

さて、それでは、このビジョン声明を達成するにはわたしたちはどうしていたらいいのでしょうか。そこで考えられたのが、行動計画です。行動計画は4つの戦略的優先事項からなっています。

1. より大きなインパクトをもたらす
2. 参加者の基盤を広げる
3. 参加者の積極的な関りを促す
4. 適応力を高める

27 ビジョン声明実現の構図

ビジョン声明を実現するために行動計画があるのですが1、その行動計画を支えるのはロータリークラブです。

ロータリークラブが世界平和に向けて、行動計画を軸にビジョン声明を達成していけるような変化を生み出していくことが、これからのロータリーの進むべき道と言えます。

28 具体的には

では、わたしたちはどうやってロータリーを変化させていったらいいのか？

漠然と変化、変化と言っても言うだけに終わり、何も変わっていかないと思いますので、いくつかの実行項目を基軸にクラブの変化を組み立てることが有効であると思っております。これからいくつかの基軸となる点をあげて、どのような変化が必要なのか、またその変化を起こす上でわたしたちの課題となる点は何かを考えてみたいと思います。

29 必要な変化1 継続性

ロータリーにおいて、継続性をもった活動ができるようにするという事。

これは長年単年度制でやってきたロータリーにとっては大きな変化です。

クラブも地区も年次計画だけでなく、3年に亘る計画をたてましょう、これが戦略計画です。そうすることによって、なかなかクラブに単年度では達成が難しい大きな変化を生み出すことが可能になります。また、複数年をかけることでインパクトの大きい奉仕活動ができるようになります。この複数年の計画をもってクラブ、地区が活動するというやり方は、次年度以降RIがまずまず力を入れるところとなっています。

しかし、単年度制がしみついているロータリーにとって、これは口でいう程たやすいことではありません。どう前後の年度と連携がとれるようになるか、これが私たちの課題となります。前後の年度で信頼

できる人間関係を作って十分に話し合い、協力し合
って初めて実現できるものです。また、ロータリー
は単年度制でこれまで119年間もの長きにわたって
続いてきたということは、単年度制によいところも
あるので、継続性をもたせてロータリーを大きく発
展させる、それと同時に単年度制のよさ、それぞ
れの年度の個性を上手に引き出せるようにしてい
くこと、これが私たちの課題となります。

30 必要な変化2 多世代の共存

2つ目の変化は、ロータリークラブを多世代の組織、
多世代が活躍し、交流していける仲間となれる組織
にすることです。

ホルガークナークパストRI会長は、「私は、ロータ
リークラブのこのような世代の多様性が好きです。
多世代のクラブ、これこそが理想です。」と述べてい
らっしゃいます。私もロータリーの醍醐味は、違う
世代の会員が同じ立場で仲間として活動できるこ
とにあると思っています。

違う世代の会員がいる、というだけでは本当の意味
の多世代クラブは実現できていません。ほんとうに
ひとつの仲間になれているかがキーとなります。

若い世代の会員とシニア世代の会員とでは、オンラ
インの例会一つとっても、意見が違うかもしれません。
奉仕活動の選択も意見が割れるかもしれません。
例会の時間帯や例会場の希望も違うかもしれません。
それなら、若い人は若い人だけのクラブを作り
ましょう！という考えがあります。新しい酒は新しい
革袋に入れた方がいい。それは一つのいい解決策
であり、ロータリー発展につながる大切な方向性だ
と考えますしかし、同時に、既存のクラブをどうす
るか。新しい革袋を作るだけでなく、世界に37,000
もある古い革袋をどう活性化されたクラブにして
いくかを考えることこそ、これからのロータリーク
ラブ発展の最重要課題の一つであると思います。そ
れぞれの好みや考えはちがっても、そこをよく話し
合い、知恵を出し合い、歩みより、一緒にやれる道
を探していく、若い世代とシニア世代が手を取り合
ってやっていける関係を築いていくことが重要で、
これができたクラブがこれからの発展を約束され
たクラブではないかと私は思っています。

先日、若いロータリアン、20代、30代の方たちとデ
ィスカッションする機会がありました。私が思うほ
ど、違わないのかもしれないという印象をうけまし
た。若い人は古いものより新しいものが好き、若い
人は忙しくて時間がない、と思い込んでいたところ
がありました。こんな意見が目立ちました。

◎長年の伝統を重んじながらも、今の時代に息をし
ているクラブの会員でいたい

◎時間を有効に使えているクラブがいい。時間が有
効に使えているとわかればその時間を作りだして
参加する

◎頭と体を使える行動人の集まりであるクラブに
参加したい。頭で考えているだけのクラブではつま

らない。その通りだと思います。

先入観でバックグラウンドの違う人たちをみない
というのも大切になります。

31 人生110年時代

さて、最近「LIFE SHIFT」100年時代の人生戦
略 リンダ・グラットン/ アンドリュー・スコット
というイギリスの学者の書いた本を読みました。

人生は100年で考える時代が来た、人の寿命、健
康寿命はそれだけ延びてきているというのです。そ
して、ここでは人生を3ステージに分けて考えてい
ます。教育を受ける最初のステージ、仕事をする2
つ目のステージ、退職後の3つ目のステージです。
上がひと昔前、下がこれからの時代、退職後がず
っと長くなっているのがわかります。

そうすると、これまで通りと違い、長くなった部分
の使い方が重要になります。仕事の後にもう一度教
育、つまりまた勉強する人もあれば、新しい仕事を
スタートする人も出てくる、この退職後の使い方が
様々に考えられるというわけです。その使い方の中
に推奨されていたのが社会貢献の活動と書かれて
おり、まさにロータリーは100年時代にふさわし
い場を提供できる組織なのだと思います。

長くロータリーを楽しむためにも、違う世代との上
手な付き合い方が大事になります。若い世代が育
たら引退という考え方はやめていただき、長い経験
があるからこそできることでクラブの役に立って
いただきたいと思います。若い世代の方も奉りすぎ
て距離を置いてしまったりせず、積極的に近づい
ていただきたいと思います。

シニア世代には若い人への100年時代のロール
モデルとなっただき、若い人からは新しい情報
をもらう、という関係が出来たら楽しいのではない
でしょうか。

時にはお互いに、歩みよる、理解し合う、我慢する
ことも必要かもしれません。

多世代の会員基盤で、自分と違う世代の会員と交流
が持てる場は他にそうはないと思います。企業も60
代までの人であって、70代、80代の人と一緒に活動
するというケースは極めて少ないだろうと思いま
す。多世代の仲間作り、これこそロータリーならで
はの魅力であると私は信じています。

32 必要な変化3 ラーニングの力

ロータリークラブにとって、会員がロータリーをよ
く知るということが、ロータリーにしっかりと根を
張り、息の長い会員になるのに大切なことであるの
はいうまでもありません。それが会員維持につなが
りクラブの会員基盤の強化となります。この重要な
研修の在り方も今、変化が促されています。今年度
からRIが研修に関する名称の変更を発表している
ことはご存じでしょうか？

研修(training)からラーニングとなりました。
知識、情報を与えられる受け身の研修から積極的な
学びへ、コミュニケーションの中に自ら情報収集、

スキルの獲得することを目指しましょう、となりました。

3.3 名称変更

研修 (トレーニング)→ラーニングリーダー→ファシリテーターとなりました。

3.4 参加者中心の学習

RIが推奨している学習のスタイルはこうなりません。まず、ロータリー会員がしっかりと自習をする。その機会として、マイロータリーのラーニングセンターを充実させています。ラーニングセンターでの自習で、意見交換会に出席して困らないだけの情報・知識を身に着けた上で、セミナーに臨みましょう。そして、セミナーで講師の話の話を聞くと学びも大きくなり、今度はそのテーマで、他の参加者と意見交換をしましょう。

そこで、気付きやインスピレーションを得ていきましょう、という流れです。真ん中の講義を聞く、というのが研修の中心で終わり勝ちだったこれまでのスタイルに前後を加えると考えてもいいでしょう。

例えば、会長になる方はPETSに出る前に、ラーニングセンターで「クラブ会長の基本」「クラブ会長(中級編)」「多様性のあるクラブを築く」「元気なクラブ作りのために」というコースを修了しておきましょう、となり、クラブで新会員のセミナーでやオリエンテーションを行う時にも、先輩のロータリアンからの話を聞いてもらうというだけでなく、話を聞いて、新会員の間に話し合いをする、ということが効果的な学習につながるということになります。

ここで課題となるのは何でしょうか？みなさま恐らくお気づきのように、マイロータリーに登録さえしていないという日本のロータリーの現状です。まずマイロータリーを使えるようにする、ということが課題となります。これは行動計画の適応力を高める、という4つの優先事項につながる部分です。

もう一つの課題はファシリテーターを育てることです。Facilitator ファシリテーター 支援者という意味があり、上から目線で指導するということではなく、学習しやすい環境を整える、学習しやすいように手助けするという役割になります。話し合いを有効なものにするにはファシリテーションできる人材を増やすということが、クラブ内でも、地区内でも大事になります。この学習者中心というやり方は、最近では大学でも企業研修でも多くみられますが、ロータリーは新会員といえども、立派な社会経験やスキルを持った人たちのわけですから、ロータリーに適している方法だと思います。

3.5 必要な変化4 インターネットの活用

RIのお役目をいただき、外の方たちと接して感じることは、世界のロータリーと比べた時、日本は奉仕活動、財団への寄付、など勝っている点がたくさんあるのですが、日本が相当に、世界からか

け離れて遅れている。これは早くなんとかしなければと思う点が2つあります。1つは女性会員の比率があまりにも低いということ、この点に関して今日は特に触れませんが、もう一つはインターネットの活用ができていないということなのです。インターネットの活用に取り組んでいきませんか、世界のロータリーからも、時代からも取り残されていってしまうので、積極的に変化を起こさなければならないところだと思います。

課題となるのは、得意な人好きな人はいいいけれど、年配の方、敬遠している方もいらっしゃるのをどうするか？という点があります。

得意な方が率先して、クラブのみんなができることを増やしていく、というのは一つの道ではないかと思えます。

先日、当地区のPETSがあり、一人の会長エレクトがこんな話をしていました。このクラブでは戦略計画として、3年後には海外のロータリークラブと組んで奉仕活動ができるようになる、という目的は掲げていて、1年目にはクラブの例会にオンラインで参加が可能にする、オンラインはあまりという会員にも、オンラインで入ってくる参加の方を違和感なく迎え入れるように慣れてもらう。2年目にはクラブの例会を対面ではなく全員がオンラインで参加して開催できるようにして、海外からの卓話者を迎えられるようにする。つまりみんなが自分のPCからオンラインの例会に出席できるようにする、そして、3年目には、海外のクラブとオンラインで繋がって例会やミーティングを開催できるようにする、というものでした。みんなができることをひとつずつ増やしていくという方法の実践例です。

もうひとつの課題は、インターネットの活用というものをみんなが選択肢として考えられるようにする、ということがあげられると思えます。どうも見ていますと、対面か？オンラインか？という二つに一つのような捉え方、どちらがいいかを検討して、ロータリーは対面でなければ、という結論を出す、あるいはコロナが終わったのだから対面に戻るのが当然だ、とか、逆にオンラインの時代だからとんでもかんでもオンラインでやろうとする方、という傾向がみられるようにおもうのですが、目的と手段を考えて、上手に選択しながら使いこなしていくという知恵をロータリーは持ちたいと思えます。

3.6 必要な変化5 インクルーシブなクラブへ

さて、5つ目、最後にあげるのは、インクルーシブなクラブへの変化です。

つまり、DEIが実現されているクラブを作っていくことになるのですが、ここで必要なのは意識の改革です。もしかすると今迄に上げてきた5つの中でこれが一番難しい変化かもしれません。人の心の中、意識を変える、というのは理屈ではなかなか割り切れないものがあります。

・ロータリーは男性のクラブ 長い間そう思って歩んできたロータリー人生。

・会長、委員長は年配の会員でなければ恰好にならない

・新会員は何もわからない ロータリーのいろはがわからない若い新会員を社会経験やスキルを持った立派な会員だという目でみるのはなかなか難しい。

このような意識を変えていくのにはD E Iを理解し、実践していくという課題があると思います。D E Iは意識改革につながり、クラブの成長をもたらします。

DEIって？ という方もいらっしゃるかと思いますので確認しておきましょう。

37 DEIとは？

多様性 DIVERSITY

公平さ EQUITY

インクルージョン INCLUSION

38 DEIの定義

Diversity 多様性ある会員基盤

多様性 ロータリーは、あらゆる背景をもつ人や幅広い文化、経験、アイデンティティの人を歓迎します

Equity 誰もが公平に大切にされる

公平さ ロータリーは、クラブ会員の公平な扱いと機会の均等を保つよう努めています。

Inclusion 誰もが受け入れられている

インクルージョンロータリーは、あらゆる人が歓迎されていると感じ、尊重され、会員として大切にされるクラブの環境づくりに力を注いでいます。

39 DEI B

インクルーシブなクラブとは

WELCOMING 温かく迎え入れる

INCLUSIVE インクルーシブ だれもが受け入れられていると感じるクラブ

BELONGING 帰属意識 満足できて、居心地がいい、自分らしく参加できる

インクルーシブなクラブが実現できると、参加者の基盤がひろがり、参加者の積極的な関わりが生まれ、大きなインパクトとなる奉仕活動が出来るクラブとなります。

最初にお話した行動計画を実践して、ビジョン声明の達成に向かうことができるのですから、まさに最重要課題と言えます。

40 変化を起こす

インクルーシブなクラブの実現には、まず会員全員が自分でできることでクラブに参加することがなにより大切です。一人一人の力がクラブを変え、クラブの力が地域を変え、ロータリーの力が世界を変えていきます。

41 ロータリークラブはオーケストラ

よくロータリークラブはオーケストラのようだと言われますが、私はこのたとえが大好きです。ロー

タリアンは生涯現役ですから、ロータリーに傍観者はいないのです。

新会員の方はそれでも持てる楽器を、経験の長い会員の方はそれだからこそ持てる楽器を持ってください。全員が自分の得意な楽器を持って、オーケストラの一員となり、会長の振るタクトに合わせて素晴らしいハーモニー、変化の風をおこしましょう。

42 ご清聴ありがとうございました

本日お話したことから、みなさまのクラブにとって、今後考えていく課題のヒントがあり、クラブに持ち帰り、みなさまで話し合いをしていただく材料となりましたなら、幸いです。2760 地区、東尾張分区のロータリークラブの益々のご発展を祈念いたしまして、私の話を終わらせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

(以下、2023-24 年度 東尾張分区 I Mの様子)





